



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2018年11月16日 No.39

乗務員勤務における適正な労働時間管理を求める 東日本ユニオン統一検証（実測）行動

第4弾 11月16日から

ワンマン運転に関する制度改正と 実態にあった設備を実現しよう！

平成3年より地方線区を中心に「ワンマン列車の導入・拡大」が進められてきましたが、導入当時とは違い運転操縦のみならず、駅の効率化施策やICカードの導入により、接客に関して多くを求められる環境にあります。発車待ちや折り返し運転の際には乗換案内など、列車監視業務以上の業務が発生しています。

以上の観点から、ワンマン運転の仕組みや勤務制度（手当含む）に関し、経営側に申第3号で要求を提出し、団体交渉を行ってきましたが「見直すほど業務に変化が無い」との回答でした。

本当にそうでしょうか！？

安全面、お客さまへのサービス面、乗務員の体調面や仕事の負担に対する手当面についてなど、職場で意見を出し合い、改善に向けて取り組んでいきましょう！

たとえば、このような点についてどうでしょうか？

ワンマン

- ▽乗務継続時間および、乗務距離について安全確保の観点から、適切な乗務時間や乗務距離であるか。
- ▽安定輸送とサービスをお客さまに提供する乗務員の負担に対して、手当のキ口額、時間額ともに現状の額で適切であるか。
- ▽車両や設備による安全性・サービスの低下について。
- ▽車掌の状態監視が無い中で、ホーム進出時における運転席より後方の安全確保はできているのか。
- ▽運転以外の営業取り扱いおよび、接客についての不安。
- ▽お客さまの声やご意見など、どのようなものがあるのか。

みんなで検証！そして改善に向けて、私たちと一緒に行動しよう！